

研究発表会開催通知

(昭和60年4月15日～5月31日)

研究会	日	時	会場	備考
知識工学と人工知能	5月7日(火)	10:00～17:00	機械振興会館	下記参照
日本語文書処理	5月8日(水)	13:30～17:00	同上	同上
オペレーティング・システム	5月10日(金)	10:30～16:30	同上	同上
マルチメディア通信と分散処理	5月16日(木)	13:30～16:40	同上	同上
コンピュータビジョン	5月16日(木)	13:00～17:00	豊橋技科大	同上
データベース・システム	5月20日(月)	12:30～17:30	京大	同上
設計自動化	5月21日(火)	13:15～17:00	機械振興会館	同上
情報システム	5月21日(火)	13:30～16:40	商業界会館	同上
自然言語処理	5月24日(金)	10:30～16:30	KDD研究所	同上
ソフトウェア工学	5月27日(月)	13:30～17:00	機械振興会館	同上
グラフィクスとCAD	5月31日(金)	13:00～17:00	筑波大	同上

◆ 第40回 知識工学と人工知能研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 志村正道, 幹事: 石塚 満, 米澤明憲)

- 日時** 昭和60年5月7日 (火) 午前10時～午後5時
- 会場** 機械振興会館 地下3階研修1号室
〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 浅草線大門, 三田線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 渋谷ー東京タワー線東京タワー, 等々力ー東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕
- 議題**
- (1) 知識表現の枠組の統合に関する考察 松原 仁, 井上博允 (東大・工)
〔概要〕 知識表現の既存の枠組のいくつかを統合して新しい枠組を設計するという試みにおける問題点を考察する。
 - (2) CL: ドメイン言語構築機能を強化したフレーム型知識表現システム
渡辺正信, 岩本雅彦(日電), 出口幸子(日本電気ソフトウェア)
〔概要〕 オブジェクト, データ, 手続き, ルール, 論理指向表現の統合と, AI ツールについて報告する。
 - (3) 学習機能を持つプログラム翻訳システム
沼尾正行, 志村正道 (東工大・工)
〔概要〕 プログラムの翻訳方法を学習によって獲得するため, 目的プログラムを探索によって見つけた方法について述べる。
 - (4) 因果関係の推論システムについて 房岡 璋, 高橋和子 (三菱電機)
〔概要〕 因果関係を様相論理の上で表現する形式を与え, その機械的な推論方法

と応用について述べる。

- (5) 幾何学問題解答システム 稲永健太郎, 志村正道 (東工大・工)
〔概要〕 平面座標上の幾何学問題を式抽出により代数的に解き, その過程で学習を行うシステムについて説明する。
- (6) 建築物安全度査定システム 小川 均, 田村進一 (阪大・基礎工)
〔概要〕 本建築物安全度査定システムにおける査定手順, あいまいさの取り扱い, 推論制御の表現法について述べる。
- (7) 多重世界機構を用いた非線形系の質的推論 中川裕志 (横浜国大・工)
〔概要〕 質的な方程式が入力に依存する非線形系を多重世界機構を利用して質的推論する方法について検討する。

◆ 第 21 回 日本語文書処理 (日本文入力方式) 研究会 (発表件数: 4 件)

(主査: 山田尚勇, 幹事: 坂下善彦, 首藤正道)

- 日 時 昭和 60 年 5 月 8 日 (水) 午後 1 時半～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)
議 題 (1) ベター方式日本語入力法の試作 河田 勉 (東芝総研)
〔概要〕 日本語文入力方式は, 入力者になるべく自由度を与える方がのぞましい。既存の入力法と自由型入力のブリッジを果す入力法として, いわゆるベター入力法を試作した。その概要について示す。
- (2) 連語解析を用いたべた書きかな漢字変換 本間 茂, 山階正樹, 小橋史彦 (横須賀通研)
〔概要〕 連語 (結合してまとまった意味をなす単語の組) の情報を用いて文の曖昧さを低減した, べた書きかな漢字変換について述べる。
- (3) かなべた文の逐次単語分割アルゴリズムの一方式 藤田克彦, 沼田泰之, 山内佐敏 (リコー)
〔概要〕 かな文字列の先頭から, 同読み同品詞の単語群の評価値と, 接続の重みとに基づき, 単語分割を行う方式。
- (4) 和欧混合組み版システムの試作と組み版規則の検討 長谷部紀元, 亀山豊久 (情報大)
〔概要〕 欧文組み版プログラム troff を基に試作した出版物品質の出力を行う和欧混合組み版システムと, その組み版規則について報告する。

◆ 第 27 回 オペレーティング・システム研究会 (発表件数: 5 件)

(主査: 益田隆司, 幹事: 紀 一誠, 鈴木則久, 関野 陽)

- 日 時 昭和 60 年 5 月 10 日 (金) 午前 10 時半～午後 4 時半
会 場 機械振興会館 6 階 67 号室 (所在地は前記参照)
議 題 (1) PC-Smalltalk 鈴木則久, 小原盛幹, 中島 淳 (東大・工)
〔概要〕 大衆向けパソコンの上に Smalltalk-80 フルセットを実現した。
- (2) SIMDOS のプログラミング環境 高木茂行, 近山 隆, 坂井 公, 佐藤正俊, 黒川利明
服部 隆, 辻順一郎 (ICOT)
〔概要〕 逐次型推論マシンについてデバッガ, ライブラリ, エディタを中心に述べる。

(3) Prolog プログラミング環境の作成

沼尾雅之, 藤崎哲之助 (日本 IBM)

〔概要〕 Prolog の統合的プログラミング環境の作成と, その上でのモードレスオペレーションによるユーザ・インタフェースの実現について述べる.

(4) 構文向き編集系に基づいたプログラミング環境

斉藤信男 (慶大・理工)

〔概要〕 Gandalf や Mentor についてその使用経験をまじえて紹介する.

(5) 論理型言語・URANUS のプログラミング環境 中島秀之 (電総研)

〔概要〕 URANUS は Prolog を知識表現用に拡張した言語であり, LISP マシン上で実現されている.

◆ 第 25 回 マルチメディア通信と分散処理 (分散処理システム) 研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 野口正一, 幹事: 白鳥則郎, 河岡 司)

日 時 昭和 60 年 5 月 16 日 (木) 午後 1 時半～4 時 40 分

会 場 機械振興会館 地下 3 階 9 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) ISO/TC 97/SC 21 の標準化動向と今後の課題

若山博文, 高橋祥兼 (横須賀通研)

〔概要〕 第 1 回 SC 21 総会の結果に基づき, OSI 上位層および GKS, DB 等の関連技術の標準化状況と課題について述べる.

(2) マルチメディアデータ通信処理方式

伊藤路夫, 坂口敏雄 (横須賀通研)

〔概要〕 情報センタ上の漢字混り文 DB を音声, FAX 等のメディアで利用可とする通信処理サービスの主要方式を述べる.

(3) マルチメディア・ドキュメントを対象とした格納管理と分散処理

上田鉄雄, 阪田史郎 (日電)

〔概要〕 マルチメディア・ドキュメントの格納装置と各種アプリケーションによる分散ドキュメント処理例について述べる.

(4) 網輻輳時のフロー制御の一評価

川村克彦, D. Browning, 五反田隆広, 佐久間幹郎 (沖電気)

〔概要〕 コンピュータ・ネットワークの網内フロー制御に関し, 網輻輳が発生したときの通信特性を解析し, それに基づいてフロー制御方式を評価する.

(5) 分散処理システムにおける名前管理の一方式

古宇田フミ子, 田中英彦, 元岡 達 (東大・工)

〔概要〕 分散系でのプロセスの名前付を考察した. 相対名前付手法を用い, 分散を意識せずに済むような構成の一案を示した.

(6) プロトコルの状態遷移表現の生成法とその適用例

荒川暢也, 高橋 薫, 白鳥則郎, 野口正一 (東北大・通研)

〔概要〕 プロトコルの仕様を状態遷移表現する一手法を構成し, その適用結果について述べる.

◆ 第 36 回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 白井良明, 幹事: 木戸出正継, 松山隆司)

- 日 時 昭和 60 年 5 月 16 日 (木) 午後 1 時～5 時
 会 場 豊橋技術科学大学 語学センター講義室
 [豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1-1 国鉄：豊橋駅表玄関名豊ビル地下バスターミナル④番線から技科大行または細谷東行で技科大前下車 Tel. 0532(47) 0111 (事務室 内線 752)]
- 議 題 (1) 中心射影オプティカルフローの解析 金谷健一 (群馬大・工)
 [概要] 物体の 3D 運動と形状を回転群既約表現に対応する不変量を用いて、座標変換不変な理論式で与える。
 (2) 物体理解における物体の見え方の推定 村野朋光, 襲 東 善, 山本栄一郎 (富士通研)
 [概要] 物体形状として凸多面体を取りあげ、透視投影下における見え方のすべてを推定する方法について報告する。
 (3) トップダウン・セグメンテーションのための画像処理エキスパートシステムの開発 松山隆司, 尾崎正治 (京大・工)
 [概要] 画像処理に関する知識を用いて、トップダウン・セグメンテーションを行うエキスパートシステムについて報告する。
 (4) 平均化操作を用いた閉曲線図形の特徴抽出と階層的分割 松山隆司, 米沢比呂志, 東 圭三 (京大・工)
 [概要] 閉曲線図形に対して平均化操作を施すことにより、局所的対称軸、角、変曲点の抽出、および図形の階層的分割を行う。
 (5) カメラの前進移動による 3 次元計測法 馮 開 華, 杉原厚吉, 杉江 昇 (名大・工)
 [概要] 規則的なパターンの投影像とカメラの前進移動を利用した 3 次元情報抽出法について報告する。
 (6) 中心投影像における柱・錐状台の識別 邱 中 奇, 北橋忠宏 (豊橋技科大・情報工学)
 [概要] 中心投影像においては柱・錐状の台はともに錐状台のように見える。射影幾何学の複比の概念を利用してこれらを弁別する。

◆ 第 47 回 データベース・システム研究会 (発表件数：6 件)

(主査：上林弥彦，幹事：石井義興，鈴木健司，三浦孝夫)

- 日 時 昭和 60 年 5 月 20 日 (月) 午後 12 時半～午後 5 時半
 会 場 京都大学工学部 情報工学科 1 階第一講義室
 [京都市左京区吉田本町，国鉄：京都駅下車，市バス：17 番 (錦林車庫) 百万遍下車，地下鉄：北大路行にて今出川下車，バス：烏丸今出川バス停より市バス：203・201 番にて百万遍下車，Tel. 075 (751) 2111 内線 5370]
- 議 題 (1) 関係データベースにおける部分関係について 武田浩一 (日本 IBM)
 [概要] 関係データベースにおける汎化の概念を，半順序集合を定義域とする属性を用いて部分関係として実現した。
 (2) 非正規関係を用いたネットワークデータベースの巡航質問処理 上林弥彦，古川哲也 (九大・工)
 [概要] ネットワークデータベースの質問処理において，非正規関係を利用し，

中間結果を減らし利用者向きの出力を生成する。

(3) 関係型均質分散データベースシステム RDB/DV

手塚正義, 安達 進, 山根康男, 中田輝生, 武理一郎, 岡崎 卓 (富士通研)

〔概要〕 RDB/DV システムの基本アーキテクチャと分散問い合わせ, 同時実行制御機能などの実現方式について報告する。

(4) 多機能を連携化させたパソコン上でのデータベース処理

樋谷猪久夫, 渡辺豊英 (京大・大型計算機センター)

〔概要〕 本稿では情報ネットワークを形成する一要素としてのパソコンが有すべきデータベース機能を概説する。

(5) 情報提供サービスに適用可能な超大規模リレーショナル・データベースマシン

井上 潮, 北村 正, 速水治夫, 中村敏夫 (横須賀通研)

〔概要〕 超大規模リレーショナルデータベースマシンのアーキテクチャと関係代数演算の処理方式を提案する。

(6) リレーショナルデータベースマシン向きのクラスタリング方法に関する一考察

板倉一郎, 井上 潮 (横須賀通研)

〔概要〕 リレーショナル・データベースマシンの処理を高速化するためのクラスタリング方法について考察する。

◆ 第 26 回 設計自動化研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 村井真一, 幹事: 池本康博, 向殿政男, 吉田憲司)

日 時 昭和 60 年 5 月 21 日 (火) 午後 1 時 15 分～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) PWB 用多機能配線システム

鈴木康晴, 御幡昭司, 泉 正夫, 野尻 寛, 植村昌俊 (沖電気)

〔概要〕 高密度化および部品・パターン形状の多様化に対応可能な PWB 用多機能配線システムについて述べる。

(2) レイアウトコンパクションの一手法

加藤文夫, 白石 博 (富士通研)

〔概要〕 ラフに入力されたレイアウトパターンを圧縮するレイアウトコンパクションに関し, そこで用いている手法と若干の適用例について報告する。

(3) インバータを用いた PLA 畳み込み

井口幸洋, 向殿政男 (明大・工)

〔概要〕 切断点を用いるのではなく, AND 平面内にインバータを配することで, PLA を畳み込む新しい方法を提案する。

(4) 検査容易度判定システム (TRUE) とその評価尺度

西田隆夫 (日立)

〔概要〕 TRUE の解析手法であるサンプリング法とテストビリティメジャ計算法の貢献度を分析するための指標を提案する。

(5) PATEGE: シリーズゲート ECL ゲートアレイのための DC パラメトリックテスト生成システム

猿山秀一, 荻原拓治, 村井真一 (三菱電機)

〔概要〕 ECL 回路に対し DC テスト (入力電流, 基準電圧, 電源電流) を自動生成するアルゴリズムについて述べる。

◆ 第5回 情報システム研究会

(発表件数：4件)

(主査：浦 昭二，幹事：槻木公一，柳原一夫，山本毅雄)

日時 昭和60年5月21日 (火) 午後1時半～4時40分

会場 商業界会館 2階大会議室

[東京都港区麻布台 2-4-9, 地下鉄：日比谷線神谷町，バス：渋谷ー東京タワー線東京タワー，等々力ー東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車，飯倉交差点角。
Tel. 03 (584) 7311]

議題 (1) 情報システムによる経営問題の解決ーその哲学的考察ー

川瀬武志 (慶大・理工)

[概要] 問題解決における情報システムの役割と目的と手段の関係，技術導入と組織人間問題の観点から哲学的考察を行う。

(2) 調剤薬局の情報システム

水野睦郎 (水野調剤薬局)

[概要] 開局薬局の薬の使い方，個々の患者の特質など広汎な情報を直ちに利用できるシステムが望まれている。

(3) NAPLPS (=テリドン) 方式のビデオテックスについて

渡辺昭雄 (リンケーシステムズ)

[概要] 昭和59年の秋から NAPLPS あるいはキャプテン方式のビデオテックス・サービスが日本でも行われるようになったが，ここでは NAPLPS ビデオテックスサービスの実態について報告する。

(4) キャプテン・システムーその光と影

白川通信 (日本衛星放送)

[概要] 1. キャプテンへの期待ー現実

2. キャプテン利用の具体例

3. テリドンなど他のビデオテックス・サービスとの比較

4. キャプテンの近未来像ーユーザ・サイドから

◆ 第49回 自然言語処理研究会

(発表件数：7件)

(主査：吉田 将，幹事：榊 博史，首藤公昭，野村浩郷)

日時 昭和60年5月24日 (金) 午前10時半～午後4時半

会場 国際電電 (KDD) 研究所

[東京都目黒区中目黒 2-1-23, 国鉄：恵比寿駅西口下車，地下鉄：日比谷線恵比寿下車，山手線の外側三井銀行の左を入り，徒歩8分，Tel. 03 (713) 0111]

議題 (1) 英語前置詞用法分類のための基本的手順について

榊 博史，鈴木雅実，野垣内出 (KDD)，若菜弘志 (日本アイアール)

[概要] 英文中での前置詞の用法，修飾先を決定するための基本的手順に関して示す。

(2) 結合価に基づく英日機械翻訳の試み

鈴木雅実，野垣内出，榊 博史 (KDD)

[概要] 結合価文法に基づく言語依存型中間構造を経由してトランスファを行う方式について，その特徴とシステムの概要を述べる。

(3) ユーザの会話の型を用いた質問応答システム

鈴木浩之，清野正樹，向後秀二 (松下電器)

〔概要〕 ユーザの会話の型を用いることにより、日本語のスムーズな会話で質問
応答をすすめる方式について述べる。

(4) 語彙遷移ネットワーク文法について

天野真家, 野上宏康, 三池誠司 (東芝総研)

〔概要〕 自然言語の分析には意味分析が必須である。この文法では意味分析と統
語分析を分離し文法記述の容易さとパーザの高速性を目標とした。

(5) A Deterministic Parser of English 武舎広幸 (東工大・理)

〔概要〕 人間の言語理解の過程の観察に基づき、決定的な構文解析法を示す。こ
れに基づいて作成したパーザの評価も行う。

(6) Mu プロジェクトにおける英日翻訳の英語形態素解析の基本設計

坂本義行 (電総研)

〔概要〕 英語形態素解析における入力テキストの定形化、単語単位の分割、構文
情報等英語辞書情報について述べる。

(7) Mu プロジェクトにおける日英翻訳実験の形態素処理の結果とその評価

坂本義行 (電総研), 中村順一, 辻井潤一, 長尾 真 (京大・工)

〔概要〕 言語処理システムの日英翻訳について大規模な実験の結果と翻訳シス
テムの評価について述べる。

◆ 第 41 回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 4 件)

(主査: 花田収悦, 幹事: 落水浩一郎, 紫合 治, 春原 猛)

日 時 昭和 60 年 5 月 27 日 (月) 午後 1 時半～5 時

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題 (1) モジュール・インタフェース設計支援システム

常田高志 (沖通信システム), 石原平太郎, 青柳 廣, 鍋田政之 (沖電気)

〔概要〕 交換用ソフトウェア設計環境の中で、特にモジュールインタフェース設
計支援システムの処理方式と手法

(2) 設計情報管理ツール

吉村博史 (富士通)

〔概要〕 生産性・品質向上のためにデータ項目・レコード・プログラム等の情報
を設計段階より管理・利用する方法。

(3) 段階的詳細化に基づくソフトウェア開発支援系の設計

野呂昌満, 原田賢一 (慶大・情報科学研)

〔概要〕 モジュール分割の過程および各モジュールの仕様と実現を段階的に記
述するための言語: MODEL とそのエディタ。

(4) ソフトウェア開発管理と情報収集

尾崎裕史, 三原幸博, 高橋 勉, 大須賀昭彦 (東芝)

〔概要〕 ソフトウェア開発管理のための情報と収集方式を考察するとともに、
データを自動収集する一方式の提案。

◆ 第 17 回 グラフィクスと CAD 研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 田嶋太郎, 幹事: 出澤正徳, 内田光太郎, 川合 慧)

日 時 昭和 60 年 5 月 31 日 (金) 午後 1 時～5 時

会 場 筑波大学大学会館 特別会議室 (3 階)

〔茨城県新治郡桜村天王台 1-1-1, 国鉄: 常盤線 (上野発 11: 03) 荒川沖下車

議 題

(12: 06), 東口より, 関東鉄道バス: 筑波大中央行き (12: 15) 大学会館前下車
(12: 45), Tel. 0298 (53) 2787]

(1) 面の解釈整合化による三面図の理解

渡辺恒文, 西原清一, 池田克夫 (筑波大・電子・情報)

〔概要〕 三面図を入力し, 局所的な面の拘束条件を整合ラベリング問題として解き, 三次元モデルを復元する方法について発表する.

(2) 形状モデラと知識処理システムの結合方式

今村 聡, 小島俊雄, 井上久仁子, 関口 博 (機械技研)

〔概要〕 Pascal で記述した形状モデラと prolog を利用して, 機械部品形状および技術情報のデータベースから製造情報を自動生成することを試みた.

(3) 物体認識用幾何モデル

越川和忠, 白井良明 (電総研)

〔概要〕 CAD 用の幾何モデルに, 物体認識に必要な機能を付け加えたので報告する.

(4) 多面体の形状処理とそのユーザ・インタフェースの方式

山内 聖, 西野博二 (筑波大・電子・情報)

〔概要〕 多面体を4面体の集合により表現・合成するためのソフトウェアツールおよび多面体分割の性質について述べる.

(5) CGI 入力機能の実現 牧喜代司, 近藤明男, 今宮淳美 (山梨大・工)

〔概要〕 CGI (以前 VDI と呼ばれていた) 入力機能を UNIX 下のマイクロコンピュータ上で試作したので報告する.

* 研究会終了後, 関連研究室の見学を行います.

◆ 知識工学と人工知能研究会

第41回 研究会を7月4日(木) 於北海道大学で開催いたします. 発表ご希望の方は4月末日までに事務局研究会係までお申込下さい.

◆ ソフトウェア基礎論研究会

第13回 研究会を6月6日(木)・7日(金) に於北海道大学にて開催いたします. なお, 詳細は次号(5月号)に掲載いたします.

プログラミング言語研究会発足のお知らせ

プログラミング言語は、計算機ソフトウェアにとって基本となる重要な要素であり、それに対する研究や技術開発は計算機科学の分野でも最も古い歴史がある。これは、単にソフトウェアの記述の手段として使われるだけでなく、プログラミング方法論、ソフトウェア構成論、各種のプログラミング技術などの枠組として使われ、多くの研究課題を内包している。

最近では、従来の汎用手続き型言語の拡張や整備 (Ada など)、新しい概念に基づいた言語の開発と普及 (prolog, Smalltalk など)、計算機システムの普及に伴う対象の拡大 (簡易型言語、エンドユーザ言語など) が見られ、この分野における研究活動はひき続き盛んである。

本学会では、現在、計算機科学／工学の基本分野である基礎理論、オペレーティングシステム、データベースシステム、ソフトウェア工学、コンピュータグラフィックス、分散処理、人工知能、情報システムなどに関する研究会が持たれているが、これらの分野に共通するプログラミング言語に関する研究会を発足させることは、学会員諸氏の興味をひきつけ、時期的に見ても良いと考えられる。多くの会員の参加と活発な研究会の活動を期待するものである。

◆ 目 標

1. プログラミング言語一般に関する仕様の動向に関する情報の交換をする。
2. プログラミング言語の設計、処理系、その利用に伴なういろいろの問題について、その基本的理論の追及と実地的な解決のための技術の確立を目指す。

◆ 主要な研究分野

1. プログラミング言語の設計と仕様、プログラミング言語の仕様の動向、標準化、新しい言語の設計、評価など。
2. プログラミング言語の処理系と支援環境言語処理系に関する諸問題、言語処理系のための基礎理論、プログラミング言語に即した支援環境 (エディタ、リンカ、デバッガなど)。
3. 言語とプログラミング、プログラミング・パラダイムと言語、プログラムの移植性、事例研究など。

提 案 者 (順不同)

島内剛一 (立教大)	米田信夫 (東大)	中田育男 (筑波大)	和田英一 (東大)
石畑 清 (東大)	安村通晃 (日立)	寛 捷彦 (立教大)	斎藤信男 (慶大)
武市正人 (電通大)			

昭和 60 年度研究会のお知らせ

昭和 60 年度は、下記の通り 17 研究会(新設 1)で行います。(※のプログラミング言語が新設されました)

- 年間を通して参加の場合は登録をお願いします。(但し本学会員に限る。)
- 登録されていない会員は研究会当日資料代 ¥1,000 をいただきます。(但し、部数に制限があります。)

研 究 会 名	主 査 幹 事	取り扱う研究分野の例
1 自然言語処理	○吉田 将 榊 博史 野村浩郷 首藤公昭	言語理論, 言語行動, 言語利用, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2 データベース・システム	○上林弥彦 石井義興 三浦孝夫 鈴木健司	基礎理論, モデル, 設計, 言語, 質問処理, 並行処理, 分散DB, DB マシン, アーキテクチャ, マルチ・メディアDB, 知能 DB, 応用 (OA, CAD など)
3 知識工学と人工知能	○志村正道 石塚 満 米澤明憲	知識の表現と獲得, 知識ベース, エクスパートシステム, 推論と学習, 定理証明, 発見的手法, 自動プログラム合成, 知能ロボット, パターン理解, 人工知能用語
4 記号処理	○和田英一 奥乃 博 吉文男 寺島元章	記号処理言語と処理系, 記号処理の理論と応用(数式処理, 言語処理, ゲーム, 知識ベース, 論理プログラミング, ラムダ算術, 関数型言語など), 記号処理アーキテクチャ, 記号処理の技法
5 ソフトウェア工学	○花田収悦 落水浩一郎 春原 猛 紫合 治	ソフトウェア工学の前進を目指し以下の分野を中心に活動する。生産手法・工具・設備, 管理と計量, システムの分析・設計, 利用者界面, ソフトウェアと社会のかかわり合い, 要員の確保・訓練・再教育
6 マイクロコンピュータ	○安田寿明 齊藤 剛 若島陸夫 脇 英世	マイクロコンピュータおよびその応用システムに関して, 下記の各項目での研究促進と成果の発表を目的とする。1. アーキテクチャ 2. 開発用システム 3. OS 4. プログラミング言語 5. 応用システム 6. パーソナル・コンピュータ
7 計算機アーキテクチャ	○飯塚 肇 大島一純 坂村 健	計算機システムの設計・構成・制御技術, ファームウェア技術, VLSI 向きアーキテクチャ, 応用指向・問題向きアーキテクチャ, 各種並列アーキテクチャ
8 オペレーティング・システム	○益田隆司 紀一誠 関野 陽 鈴木則久	OS (大型/小型/分散)の構造論, 設計思想, 記述方式, 実現, 人間工学的評価, プログラミング環境, 並列処理, 計算機システムの性能解析, モデル化技法, 信頼性
9 コンピュータビジョン	○白井良明 木戸出正継 松山隆司	画像処理一般(強調・復元, 認識・理解, アルゴリズム, 専用プロセッサ, 言語), ロボットビジョン, 物体認識, 動画画像解析, 画像データベース, 視覚系のモデル
10 設計自動化	○村井真一 池本康博 吉田憲司 向殿政男	LSI/VLSI・プリント板・論理装置等の論理設計・実装設計・検査設計の自動化, ハードウェア記述言語, 階層化設計手法, 知識ベース CAD, EWS
11 マルチメディア通信と分散処理 (分散処理システム)	○野口正一 河岡 司 白鳥則郎	ニューメディア, マルチメディアを用いた広域分散, ローカル・ネットワーク, 機能分散, 負荷分散などの分散処理システムの設計と運用技術, 計算機網技術とその応用に関する理論と実際
12 日本語文書処理 (日本語入力方式)	○山田尚勇 坂下善彦 首藤正道	文章の分野別特徴, 人間工学的基礎, 各種入力法の研究と比較, オペレータ教育法, 文書処理方式と制御言語, オフィス・オートメーションとのかかわり
13 グラフィクスと CAD	○田嶋太郎 出澤正徳 川合 慧 内田光太郎	グラフィクス ソフトウェア, グラフィクス ハードウェア, グラフィクス言語, 標準化, 図形処理・表示アルゴリズム, 形状処理, 表示技術, アニメーション, ユーザインタフェース, 図形データベース, 図面の認識と理解, ワークステーション, CAD/CAM, AI の CAD への応用
14 数値解析	○一松 信 唐木幸比古 浜田穂積 名取 亮	数値計算とその解析, 特に超大型計算や超高精度計算, 数式処理との結合, 数学的ソフトウェアの移植, 計算機や言語への提案, 計算の能率化手法
15 ソフトウェア基礎論	○広瀬 健 佐々政孝 新田克己 所真理雄	言語設計, 形式的仕様, プログラム意味論・検証論, プログラムの変換合成, プログラミング方法論, 関数型・論理型プログラミング, 並列処理, データ意味論
16 情報システム	○浦 昭二 槻木公一 山本毅雄 柳原一夫	情報システム(OIS, MIS, 情報サービスなど)の分析・設計・構築・利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理等の理論と実際, 情報システムと人間・組織・社会
※ プログラミング言語	○島内剛一 石畑 清 安村通晃 齊藤信男	(1)言語仕様の動向・標準化, 言語の設計・評価, (2)言語処理系の理論と実際, 支援環境, (3)言語とプログラミング(パラダイム, 移植性, 事例研究など)

昭和 60 年度研究会（新規）登録申込書

登録上の注意

- 1) 本申込書は新規の方のみご利用ください。（59 年度に登録された方は使用できません。）
- 2) 59 年度にいずれかの研究会に登録された方には、別途各登録者宛に「昭和 60 年度研究会の登録について（お願い）」を送付いたします（3 月上旬）。
- 3) 登録は本学会員に限り、各研究会登録費は年間下表のとおりです。登録者には、研究会に欠席の場合資料を後日郵送します。
- 4) 登録は、登録費の領収をもって正式の受け付けとします。おそくとも 5 月末日までにご登録下さい。6 月以降になると既刊の資料は確保しかねますので、ご承知おき下さい。

（ご希望の研究会の申込み欄に○印をつけること）

申込み	研 究 会 名	登録費	申込み	研 究 会 名	登録費
	自然言語処理	3,000円		設計自動化	3,000円
	データベース・システム	3,000円		マルチメディア通信と分散処理	3,000円
	知識工学と人工知能	2,500円		日本語文書処理	3,000円
	記号処理	2,500円		グラフィクスと CAD	2,500円
	ソフトウェア工学	3,000円		数値解析	2,500円
	マイクロコンピュータ	2,500円		ソフトウェア基礎論	2,500円
	計算機アーキテクチャ	2,500円		情報システム	2,500円
	オペレーティング・システム	2,500円		プログラミング言語	2,500円
	コンピュータビジョン	3,500円			

- （フリガナ）
- 申込み会員氏名 _____ [正・学・賛] 会員 No. _____
- 勤務先名・所属 _____ Tel. _____
- 所在地（〒 _____）
- 資料送付先（上記勤務先以外の場合のみ記入）
（〒 _____）
- 登録費（年間） 2,500円× _____ 件, 3,000円× _____ 件, 3,500円× _____ 件
合 計 _____ 円也
- 次のいずれかの方法でご送金下さい。いずれの場合も必ず登録申込書が必要です。
- なお、会社名などで送金の場合は、別途個人名を事務局までお知らせ下さい。
- ☐ 現金書留：登録費と登録申込書を同封のこと。 ☐ 現金持参
- ☐ 郵便払込：払込用紙に希望研究会名を記入のこと。 ☐ 口座番号「東京 5-83484」
- ☐ 銀行振込：第一勧銀・虎ノ門支店（普） No. 1013945
- 払込み日 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日
- 情報処理学会の請求書（ 通 ），見積書（ 通 ），納品書（ 通 ）が必要です。
- （社）情報処理学会 研究会係 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内 Tel. 03(431) 2808

新年度にあたって（お願い）

——会費・購読費の納入，新会員勧誘など——

新年度にあたって，会員の皆様につきの点につきご確認いただき，あわせてご協力のほどお願いいたします。

（１） 60 年度の会費および論文誌・欧文誌購読費の納入

1 月下旬に会員個々に納付書(郵便振替用紙)を送付いたしました。未納の方は早急にご納入ください。

なお，本年 3 月に大学学部卒業予定の学生会員には，60 年度会費は正会員 (7,200 円) として請求してあります。大学院修士課程に進まれる方は，学生会員として継続できますので，1 月末にお届けした納付依頼書の記事を参照のうえ，会員番号を付し，大学院名・研究科名・専攻名，修了予定年月および学会誌の送本先を変更する場合はその宛先等を必ずご連絡ください。

（２） 滞納会費の納入

59 年度会費未納者には，これまで再三にわたり請求いたしておりますが，このたびの請求によっても納付いただけない場合には，本学会から除名することがありますので，ご承知ください。

（３） 学会誌の送本先変更

勤務先，自宅住所に異動のある方は，必ず所定の用紙「変更連絡届」（本号末尾に添付）にて会員番号を付し，早速にご連絡ください。

（４） 退 会

書面（様式任意，はがき可）にてお申出ください。なお，59 年度会費が未納の場合には，昨年 4 月以降送本した学会誌を会費月割りで精算のうえ請求いたします。

（５） 論文誌・欧文誌の新規購読

論文誌（隔月刊）および欧文誌（季刊）は有料頒布です。購読を希望する会員は本欄添付の申込書を使用して，お申し込みください。

（６） 新入会員の勧誘

3 月，4 月は新入会のチャンスです。入会申込書を前号末尾に綴込みましたので，入会をご勧誘ください。

学会誌送本先・住所等変更の連絡について（お願い）

年度末および始めは異動期で，会員の住所，所属変更が殺到いたします。これまで任意の書式でご連絡いただきましたが，EDP 化した事務処理を誤り少なく能率化するため，また会員からの要望もありますので，本号末尾に「変更連絡届」用紙を添付いたしました。今後異動のご連絡にご利用くださるようお願いいたします。

第 26 回 通 常 総 会 の お 知 ら せ

昭和 60 年度通常総会を下記によって開催いたします。総会の案内状は、別途郵送いたしますので、ご欠席の場合には、必ず委任状をご返送ください。

記

- | | |
|------|---|
| 日 時 | 昭和 60 年 5 月 17 日 (金) 15 : 30 ~ 17 : 00 |
| 会 場 | 機械振興会館大ホール (地下 2 階) |
| 総会次第 | <ol style="list-style-type: none">1. 会長あいさつ2. 昭和 59 年度事業報告および決算報告3. 昭和 60 年度事業計画および予算審議4. 25 周年記念特別功績賞の表彰5. 昭和 59 年度論文賞の表彰6. 新役員の選定7. その他 |

なお、総会終了後ささやかな懇親パーティ (無料) を行います。(会場 6 階 65 号室)
会員が一堂に会し、直接にお話しできる得難い機会ですので、皆様のご出席をお待ちいたしております。

パターン認識国際学会への登録について

パターン認識国際学会 (International Association for Pattern Recognition, IAPR) の日本における窓口は、これまで視聴覚情報研究会 (AVIRG) にお世話しておりましたが、この度から情報処理学会となりました。

IAPR に登録された会員には、IAPR から発行される IAPR News Letter が無料で配布されることとなります。ただし、IAPR に氏名を登録できる方は情報処理学会の会員 (正会員、学生会員) とし、登録は個人名であることが必要です。IAPR 登録者は年 4 回 IAPR News Letter を受け、2 年に 1 回開催されるパターン認識国際会議に参加する際、参加費の割引がある等の特典を受けられます。登録申込み締切りを 4 月末まで延期しますので、前号本欄参照のうえ早急にお申し込みください。

昭和 60 年度各種行事の予告について

4 月以降の主な行事予定は以下のとおりです。詳細は順次本欄にてお知らせします。
なお、期日・会場が変更される場合もありますので、ご留意ください。

行 事	期 日	会 場
第 26 回 通常総会	5・17(金)	機械振興会館ホール
第 31 回 全国大会 (25 周年記念シンポジウムを 9・9(月)に全共連ビルで開催)	9・9(月)～12(木)	東京電機大学(10 日～12 日)
第 32 回 全国大会 (シンポジウム)	61・3・中旬	(東 京)
1985 年夏のシンポジウム (プログラムの合 成, 変換, 再利用)	7・ 中旬予定	
第 18 回 情報科学若手の会	8・8(木)～10(土)	(神戸六甲山・摩耶ロッジ)
知識情報処理	9・26(木)～27(金)	日本学術会議講堂
日本語文書処理 (仮題)	11・14(木)	機械振興会館ホール
コンピュータシステム	11・21(木)～22(金)	〃
グラフィクスと CAD	12・4(水)～6(金)	〃
アドバンスト・データベース	12・10(火)～11(水)	〃
要求仕様とプロトタイピング (仮題)	12・17(火)～19(木)	〃
第 27 回 プログラミング・シンポジウム	61・1・8(水)～10(金)	箱根ホテル小涌園
VLSI CAD への知識工学の応用	61・1・28(火)	機械振興会館ホール
Int'l. Workshop on Computer Communication (予定) (講習会)		
グラフィクスインタフェースと標準化 (共 催)	9・17(火)	機械振興会館ホール
1985 年 VLSI 国際会議	8・26(月)～28(水)	経団連会館
第 7 回 CHDL 国際会議	8・29(木)～31(土)	〃
昭和 60 年電気・情報関連学会連合大会	9・13(金)～15(日)	東北工業大学
第 16 回 画像工学コンファレンス	12・10(火)～12(木)	農協ホール

「知識情報処理」シンポジウム論文募集

標記シンポジウムの論文を募集中です。前号本欄を参照のうえ、奮ってご応募ください。

日 時 昭和 60 年 9 月 26 日(木), 27 日(金) 9:00～17:00
会 場 日本学術会議講堂 (港区六本木)
論文締切 5 月 31 日(金)

情報処理学会第31回 全国大会論文募集要領

- 開催期日** 昭和60年9月9日(月)～12日(木)
- 会 場** 第1日目(9日) 全共連ビル会議室(東京都千代田区平河町)
第2日目以降(10日～12日) 東京電機大学(東京都千代田区神田錦町)
- 応募資格** 本学会個人会員(正会員, 学生会員)に限ります。共同発表の場合には, 登壇発表者は会員でなければなりません。なお, 60年度会費未納の会員は, 登壇発表ができません。また, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には申込みを受け付けません。入会申込書は3月号末尾に添付してあります。(電子通信学会会員は全国大会の参加・発表は会員扱いとします。)

論文該当分野

1. 基礎
 - a. 計算理論, b. アルゴリズム
 - c. プログラム理論, d. その他
2. アーキテクチャおよびハードウェア
 - a. 専用マシン, b. 並列処理, c. 演算装置, d. 記憶装置, e. 周辺端末装置
 - f. 性能評価, g. 信頼性, h. 保守技術
 - i. マイクロコンピュータ, j. スーパーコンピュータ, k. その他
3. オペレーティングシステム
4. プログラミング言語およびソフトウェア工学
 - a. プログラミング言語とその処理, b. ソフトウェア設計, c. プログラミング技法
 - d. 開発管理保守, e. プログラミングツール, f. 性能評価, g. 信頼性, h. その他
5. データベース
 - a. データベースマシン, b. データモデル
 - c. データマネジメント, d. 分散データベース, e. 性能評価, f. 情報検索
 - g. その他
6. ネットワークおよび分散処理
 - a. システム, b. アーキテクチャ
 - c. プロトコル, d. ローカルネットワーク
 - e. 広域ネットワーク, f. 性能評価
 - g. 通信用ソフトウェア, h. その他
7. パターン処理および人工知能
 - a. 文字認識, b. 画像処理, c. 自然言語理解, d. 音声, e. 人工知能, f. 知識工学, g. ロボット, h. その他
8. 自然言語処理
 - a. 文解析合成, b. テキスト処理・辞書
 - c. 機械翻訳, d. 入出力, e. その他
9. 数値計算
10. ニューメディア
11. オフィスシステム
12. 技術, 産業への応用
 - a. CAD/CAM, b. CAE, c. グラフィックス, d. シミュレーション, e. その他
13. 社会システムへの応用
14. その他

- 申込料** 不要です。ただし, 登壇発表される方は, 論文集原稿を提出する際に, 必ず講演参加費(1件につき7,000円)を納入してください。
- 申込方法** 添付の講演申込用紙(1件1枚)に必要事項を記入し, 宛先明記の原稿用紙送付用封筒(大きさA4判…21cm×30cmのもの, 切手は不要)を同封のうえ, 60年5月7日(火)までに(必着), 下記申込先へお送りください。登壇発表は原則として1人1件とします。ただし, やむを得ず2件以上になる場合には, 講演参加費は1件ますごとに7,000円ずつを申しうけます。申込締切後の変更は一切受け付けません。
- 論文提出** 所定の原稿用紙を6月上旬に送付しますので, 昭和60年7月22日(月)までにご提出ください。発表は日本語または英語で行うものとしますので, 論文は日本語または英語に限ります。ただし, 登壇発表者の入会手続が未了の場合には, 原稿用紙を送付しませんのでご注意ください。また, 大会発表の全論文をJICSTのJOISに入力することとなりました。所定の用紙に標題, 発表者名とアブストラクト(150字以内)を記述して, 論文と一緒に提出していただきます。
- 表彰** 優秀な論文を登壇発表した新進の会員(学部卒業後10年未満またはこれと同等の者)には, 学術奨励賞を贈呈し次期大会で表彰いたします。
- 申込先** (社)情報処理学会 第31回 全国大会係 電話 03(431)2808

講演 番号	
----------	--

情報処理学会第 31 回 全国大会
講演 申 込 用 紙

掲 載 ページ	
------------	--

題 目 (注1)					
ふりがな (注1) 氏 名 (勤務先)		申込者が複数の場合には左から右の順に記入し、講演者の氏名には左上に○をつけて下さい。 氏名には必ずふりがなをつけて下さい。			
講演者会員番号 (入会手続中の方は 入会申込月日を記入)					
原稿用紙送付先		(所在地) 〒 (氏 名) Tel.			
論文該当分野 (注2)	(1)	(2)	(3)	*1 (注3)	*2 (注3)
(注1) 学会誌発表および論文集掲載の「プログラム」は本欄記入事項により作成しますので、題目、氏名はみだりに変更しないで下さい。					
(注2) 論文募集要領の論文該当分野表を参照し、できるだけふさわしい分野をご記入下さい。優先順位順に複数分野を記入して結構です。 (例 “データベース分野、性能評価” の場合、5e と書く)					
(注3) 複数件講演申し込みをされる方は他の申込書の論文該当分野を上欄の*1 または*2 に記入して下さい。					
— 論 文 要 旨 (300 字程度) —					

受 付 番 号	
------------	--

電気・情報関連学会連合大会について

(電気四学会連合大会の名称変更)

本学会の加盟により「電気四学会連合大会」の名称が、本年から「電気・情報関連学会連合大会」と改称されました。本年の連合大会は下記により開催されますので、奮ってご参加ください。

なお、詳細については順次本欄でお知らせします。ご注意ください。

日 時 昭和 60 年 9 月 13 日(金)～15 日(日)
会 場 東北工業大学(仙台市八木山香澄町 35-1)

本会協賛等の行事案内

(開催期日・場所)

Computer Graphics Tokyo 85	1985 年 4 月 23 日(火)～26 日(金) 国際会議：芝パークホテル 展 示 会：東京流通センター
Computer Graphics Osaka 85	1985 年 6 月 5 日(水)～8 日(土) シンポジウム：大林ビル会議室 展 示 会：OMM 展示ホール
85/1 高分子可能性講座	1985 年 6 月 10 日(月)～11 日(火) 日本化学会講堂
第 3 回 日本ロボット学会学術講演会	1985 年 11 月 28 日(木)～30 日(土) 大阪工業大学記念館
原子物理学・少数多体系物理学国際会議	1986 年 8 月 24 日(日)～30 日(土) 東京プリンスホテル(予定), 仙台市民会館
Japan Display 86—6th Int'l. Display Research Conf.	1986 年 9 月 29 日(月)～10 月 2 日(木) 経団連会館 (詳細は本号会議案内欄を参照のこと)

支 部 だ よ り

情報処理学会東北支部大会講演募集

——昭和 60 年度電気関係学会東北支部連合大会——

- 期 日 昭和 60 年 8 月 29 日(木), 30 日(金)
29 日(木)一般講演, 技術報告 午後・特別講演 30 日(金)一般講演, 技術報告
29, 30 日の両日, 展示会(計測機器, 電子通信機器, 電力機器ほか).
- 会 場 東北工業大学(仙台市八木山香澄町 35-1)
- 申込方法 「講演申込書」は申出により「原稿用紙 1,600 字」「原稿の書き方」と共に渡す.
郵送希望の場合は 1 部 170 円(2 部以上の場合は 1 部増すごとに 70 円増)の郵
送料を添えること.(講演申込金 3,000 円, 論文集代・別刷 50 部代を含む.)
- 申込・原稿締切日 7 月 5 日(金)必着厳守(申込書と原稿を同時締切とする).
- 論 文 集 論文集は大会当日受付にて配布する.(1 部 2,500 円, 郵送料 500 円).
- 申込・問合先 東北大学工学部電気情報系学科内 庄司 Tel. 0222(22)1800(内 4312)
- 懇 親 会 8 月 29 日(木) 18:00~ 場所 仙台市内 会費 3,000 円

東 北 支 部 O A 講 習 会

——地元中小企業における O A の進め方——

- 日 場 昭和 60 年 4 月 18 日(木) 9:30~17:15
- 場 所 仙台商工会議所(仙台市本町 2-16-12)
- プログラムその他詳細は前号本欄参照のこと.

第16回画像工学コンファレンス論文募集

画像工学コンファレンスは1970年の発足以来、関連学会・研究会の共通の研究発表、討論の場として、日本の画像関係の研究開発の発展に大いに寄与して参りました。本年も新たな発展を期し、第16回画像工学コンファレンスを開催することに致しました。また、'85国際画像機器展（日時：12月10日～12日、場所：都立産業貿易会館）を併催致します。奮ってご応募下さるようお願いします。

日 時 昭和60年12月10日(火)～12日(木)

場 所 農協ホール（東京・大手町・農協ビル9階）

趣 旨 画像工学は光学、エレクトロニクス、写真・印刷などの広い分野の技術に支えられ、学術・産業・医療・民生にわたる分野の発展に貢献しております。本コンファレンスは技術交流を図ることにより、画像工学分野の研究開発をさらに活発することを目的とします。

構 成 招待講演と、応募による一般講演およびポスタ講演により行います。

ポスタ講演では、会場の決められた場所で図表、写真、実物等を示し、興味をもつ聴衆と自由に質疑、討論を交わしながら研究発表を行うことができます。また、オーディオビジュアル機器などを用いたデモンストレーションもできます。

募集論文の性格 論文として未発表のものに限ります。ただし口頭発表や研究速報などは差支えありません。

募集論文の内容 画像の入力・記録・蓄積・伝送・表示・コピー・処理などの基礎・知覚・材料・デバイス・システム・方式・応用・評価に関連する内容を募集対象とします。

応募資格 特に資格を問いません。

応募論文の審査 応募論文はプログラム委員会において、申込時提出の内容概要で審査いたします。また、プログラム編成上、一般講演とポスタ講演との変更をお願いすることがあります。

講演形式・時間 一般講演：質疑応答を含め20分（予定）

ポスタ講演：ポスタ会場での発表討議120分（予定）

講演申込方法 A4横書の400字詰原稿用紙2枚以内（図表なども含め）の内容概要と、必要事項を記入した講演申込書（コピーでも可）を下記の送付先にお送り下さい。

申込締切 昭和60年7月8日(月)必着

論文集原稿 採択論文については一般、ポスタとも、図・写真・表を含め7000字以内のタイプ原稿を提出していただきます。また、希望によりカラー印刷のページを設けます（ただし実費自己負担）。原稿やスライドの作成方法などの詳細は8月上旬、論文採否通知とともに連絡します。

論文集原稿締切 昭和60年10月21日(月)必着

主 催 第16回画像工学コンファレンス実行委員会（担当 応用物理学会・光学懇話会）

加盟学会・委員会 応用物理学会・光学懇話会、テレビジョン学会・画像表示研究委員会・視覚情報研究委員会、電気学会・電子デバイス技術委員会・光子デバイス技術委員会、電子通信学会・画像工学研究専門委員会・パターン認識と学習研究専門委員会、日本ME学会・医用画像のデジタル処理研究会、画像電子学会、日本写真学会、電子写真学会、日本写真測量学会、情報処理学会・コンピュータビジョン研究会・グラフィックスとCAD研究会、日本印刷学会、レーザー学会、日本医療情報学会、医用画像情報学会。

送付先・問合せ先 〒105 東京都港区芝大門2-3-14 一松ビル1号館402号室

「第16回画像工学コンファレンス事務局」☎03-433-2544（FAX G 2 兼用）

第16回画像工学コンファレンス講演申込書

題 目		講演形式 の 希 望	デモンストレーション 機 器
氏 名		☐ 一 般 講 演	☐ V T R
連絡先 (住所 所属 電話)	〒	☐ ポス タ 講 演	☐ マイコン・パソコン その他()
	☎	☐ どち らでも可	☐ 使用しない
			持込み・借用

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」(隔月刊) および欧文誌 “Journal of Information Processing” (略称 JIP・季刊) は下記のとおり、有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書(コピーにて可)にて、お申込みください。
郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は2月号184ページにあります。

年間購読料	会 員	非 会 員
論 文 誌	4,500 円	7,800 円
欧 文 誌	3,000 円	6,000 円 (海外 7,000 円)

昭和 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申込みます。(該当欄を○で囲む) 会員 No. _____

1. 氏 名 _____ 会員(正, 学生, 賛助)・非会員

連絡先(〒 _____)

電話 _____

送本先(〒 _____)

(注) 会員には学会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌(申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入)

a. 情報処理学会論文誌(____巻____号から送本希望)

b. 欧文誌 “Journal of Information Processing”(____巻____号から送本希望)

3. 送金の方法

¥ _____ 也をつぎによって送金いたします。(送金月日 ____月 ____日)

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込(____銀行宛)

4. その他(学会事務局への連絡事項)